

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス のどか		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所担当者と保護者との連携を密にするため、連絡帳の交換及び公用携帯lineで連絡を取り合っている。</li> <li>小学校や総合支援学校の担任教師と連絡を取り合い、利用児童の心情の変化や素行に関して情報共有に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何事に対しても職員(大人)の固定観念に捉われることのないように、常に児童の自由な発想力(3i)を活かす取り組みを行っている。 3i: idea inapiration imagination</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との更なる連携、状況共有を図るため、直接的な意見交換の場となる「保護者会」を定期的に行いたい。(令和7年度は未実施)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の集団活動では、知的、身体的、感性の醸成を求めて様々な取り組みを行っている。これに加え、春、夏、冬休みでは児童の希望を取り入れてバラエティーに富んだ催しを行っている。 春休み: お好み焼きパーティ、カラオケ、お花見、マックで買い物練習、お昼を作って食べよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の感性と常識を高めることを目指し、「こんなときどうする」(公益社団法人発達協会(監修))を有効的に活用し日々実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる発達支援を目指しより多くの教材を入手して児童の支援にあたりたい。</li> <li>現在、利用児童は小学生から高校生までが本事業所を利用しており、今後は中学生、高校生用の教材も充実させていきたい。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業所は、1階が店舗、2階が事務所だった建屋を借用しており、バリアフリーという点では不十分な箇所がある。例えば、1階と2階を行き来する内階段は手摺が設置してあるものの急で狭い。安全面においては多少不安がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー、あるいは1階のトイレの設置など、児童が利用する上で、より快適な空間を確保できるような取り組みを継続したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年1月、体力的に足腰が弱い児童が本事業所の見学に来た。この時、トイレが2階だけにしかないことに懸念を抱かれた。体力的弱者に対して建屋をどう改善していくのか、この点を今後の一つの課題だと考えて取り組みたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い職員が不足。現在、職員は7名であり、このうち、50・60代が4名、20代が3名である。活発な児童が多い中、ドッチボールや鬼ごっこなどでは、体力的に職員が児童に追いつけないことが多々ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、職員の若返りを進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、職員それぞれで役割分担を見直し、知識・経験を要する支援では高齢職員が受け持つ。また、体力を有する取り組みの場合は若い職員が中心となって活動に取り組む。</li> </ul>
3			